



最初にお読みください

CentreCOM® 8016XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8016XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 4.1.4J

2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン4.1.2Jから4.1.4Jへのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 IGMPスヌーピング有効時に、本製品に存在しないVLAN IDを持つIGMP Reportメッセージを受信すると、そのグループがMACアドレステーブルに登録されていましたが、これを修正しました。
- 2.2 セキュリティモード時、未登録のMACアドレスを持つIGMP QueryおよびReportメッセージがフラッディングされていましたが、これを修正しました。
- 2.3 TFTPで、0 Byteのファイルをファームウェアファイルとしてダウンロード(TFTPクライアント→本製品)した後、TFTP、FTPで、このファイルをファームウェアとしてアップロード(本製品→TFTPクライアント)すると、ダウンロードが終了しないことがありましたが、これを修正しました。
- 2.4 マルチプルVLANとポートセキュリティの併用時、本製品を再起動すると本製品宛通信およびスイッチングができなくなる場合がありますが、これを修正しました。
- 2.5 受信データを処理する過程に誤りがあり、まれに本体のリブートまたはハングアップが発生する事がありました。これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン4.1.4Jには、以下の制限事項があります。

3.1 SNMPについて


RMON MIBのstatisticsグループ、etherStatsEntryオブジェクトで、統計情報がカウントアップした後に、etherStatsStatusにunderCreationを設定し、本製品側でRESET PORT COUNTERコマンドを実行すると、設定を変更したifIndex番号のポートのカウンターが正しく表示されません。

3.2 ポートセキュリティーについて

 **「AT-S59オペレーションマニュアル」 88、241 ページ**

- セキュリティーモード時、未登録のMACアドレスを持つパケットを受信し続けていると、Pingなどの本製品宛の通信ができなくなることがあります。
- スタティックMACアドレスは、通常は学習するMACアドレスの対象としてカウントされませんが、以下の場合にはカウントが行われ、実際に学習されているMACアドレス数とのずれが発生します。
 - ・ セキュリティーモードがLimited ModeまたはDynamic Limited Modeのとき、すでに登録されているMACアドレスをスタティックMACアドレスとして登録した場合(→ MACアドレス登録数は増加します。)
 - ・ セキュリティーモードがLimited Modeのとき、スタティックMACアドレスとして登録されているアドレスを削除した場合(→ MACアドレス登録数は減少します。)

3.3 アップロード・ダウンロードについて

 **「CentreCOM 8016XL 取扱説明書」 56 ページ**

- TFTPのダウンロード・アップロード時に使用するソフトウェアのイメージファイル用パスワードと設定ファイル用パスワードには、同一の文字列を設定することはできません。ただし、メニューから設定変更を行っている場合は、同一の文字列を設定しようとしてもエラーメッセージが表示されず、またパスワードはアスタリスク(*)で表示されるので、変更前と後の文字数が同じ場合は、設定変更が有効になっているのか、無効なのかを見分けることができません。設定変更を確認するには、SHOW SYSTEMコマンドを実行してください。

3.4 802.1Q タグ VLAN について

 **「AT-S59オペレーションマニュアル」 116、256 ページ**

802.1Q タグ VLAN モードとセキュリティーモード「LIMITED」併用時、タグ付きパケットでMACアドレスを学習させたセキュリティー対象のタグ付きポート設定を、SET VLAN PORTFRAME コマンドでタグなしポートに変更しても、タグ付きパケットが送信されることがあります。

3.5 MAC アドレステーブルの消去について


 **「AT-S59オペレーションマニュアル」 284 ページ**

マルチプルVLANモード時、最大登録数までMACアドレスが登録された状態で、RESET FDB コマンドを実行すると、MACアドレステーブルに登録されているMACアドレスが消去されないことがあります。

4 未サポート機能

以下の機能はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

DHCPクライアント機能について

 **「CentreCOM 8016XL 取扱説明書」 51 ページ**


「AT-S59オペレーションマニュアル」 18、77、224ページ

本バージョンでは、DHCPクライアント機能は未サポートですので、あらかじめご了承ください。なお、DHCPクライアント機能を有効に設定(Enable DHCP function メニューおよびENABLE DHCP コマンド)しても、有効にはなりません。

5 マニュアルの補足

同梱のCD-ROMに収録されている「AT-S59 オペレーションマニュアル」の補足説明です。

5.1 ポートセキュリティーについて

 **「AT-S59オペレーションマニュアル」 88、241 ページ**


- セキュリティーモード設定時、他のポートで登録されたMACアドレスに対してセキュリティーがかからないことがあります。
ポートに学習可能なMACアドレスの最大数と不正パケット受信時のアクションを設定した場合は、ポートに接続されている端末を別のポートに移動させないでください。
- データの送受信中にセキュリティーモードの切り替えをすばやく行くと、学習されたMACアドレスが、ダイナミックMACアドレスとスタティックMACアドレスに混在して登録されることがあります。
セキュリティーモードを切り替える場合は、しばらく間をあけてください。
- Limitedモードを設定し、MACアドレス学習中に、VLAN設定で対象ポートをタグなしポートからタグ付きポートに変更すると、すでに学習済みのMACアドレス宛のパケットにはタグが付与されません。
Limitedモードを設定した後で、対象ポートをタグなしからタグ付きに変更した場合は、スタティックMACテーブルの消去(Clear static MAC table メニューおよびRESET FDB コマンド)またはスタティックMACアドレスの削除>Delete MAC address(Per port static MAC address)メニューおよびDELETE FDB DESTADDRESS コマンド)を行ってください。

5.2 マルチプルVLANについて

 **「AT-S59オペレーションマニュアル」 144 ページ**

マルチプルVLANモード設定時、転送先(マネージメントポート含む)のない単一のVLANを作成した場合、該当ポートでブロードキャストパケットを受信しても受信フレーム統計情報のFrames および Broadcasts のカウンターが正しくカウントアップされません。

5.3 マルチプルVLANについて

 「AT-S59オペレーションマニュアル」144ページ

- マルチプルVLAN使用時のMACアドレス登録数は、2047個となります。
- マルチプルVLAN使用時は、エージングタイムでMACアドレステーブルが必ず更新されます。